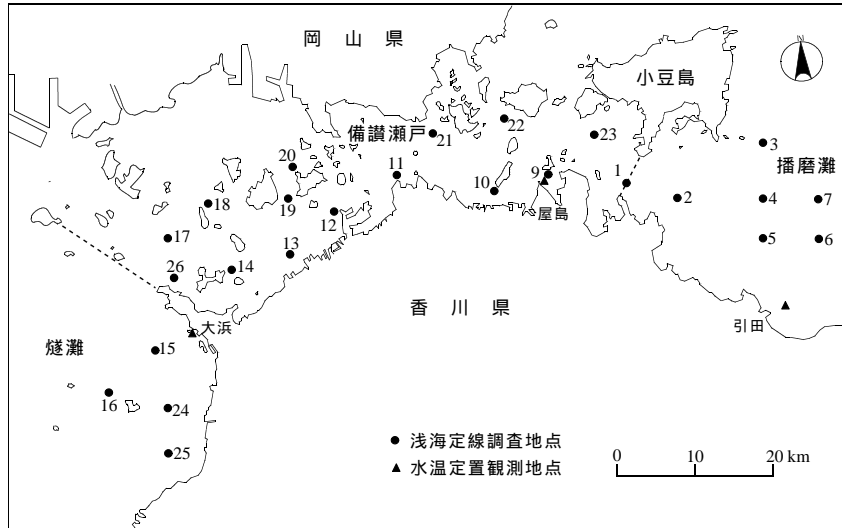


香川県漁海況速報 平成19年 6月 (H19-3号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成19年6月4日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並みからかなり高め」、塩分は「やや高め」、透明度は「平年並み」、溶存酸素は「やや低めからやや高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	18.7	18.0	16.9	32.6	32.7	32.7	10.6	5.03	4.88
	平年値	18.4	17.1	15.4	32.0	32.1	32.3	9.6	5.37	4.60
	平年偏差	0.4	0.9	1.5	0.6	0.6	0.4	1.0	-0.34	0.28
	状況	平年並み	やや高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	やや低め	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	18.8	18.6	18.5	33.0	33.0	33.0	4.7	4.86	4.85
	平年値	18.0	17.6	17.4	32.2	32.3	32.3	5.0	5.21	5.08
	平年偏差	0.8	1.0	1.1	0.7	0.7	0.6	-0.3	-0.35	-0.23
	状況	やや高め	かなり高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	やや低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	20.0	17.7	16.4	33.0	33.2	33.2	9.6	5.10	4.77
	平年値	20.4	17.0	15.2	32.5	32.7	32.9	10.3	5.42	4.38
	平年偏差	-0.5	0.7	1.3	0.6	0.5	0.4	-0.7	-0.32	0.39
	状況	平年並み	やや高め	かなり高め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	やや低め	やや高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

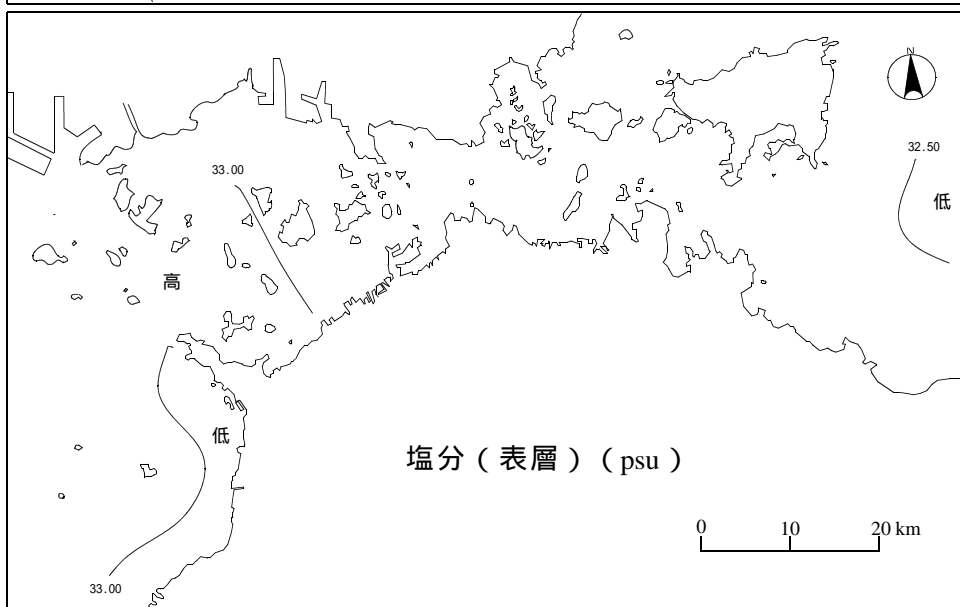
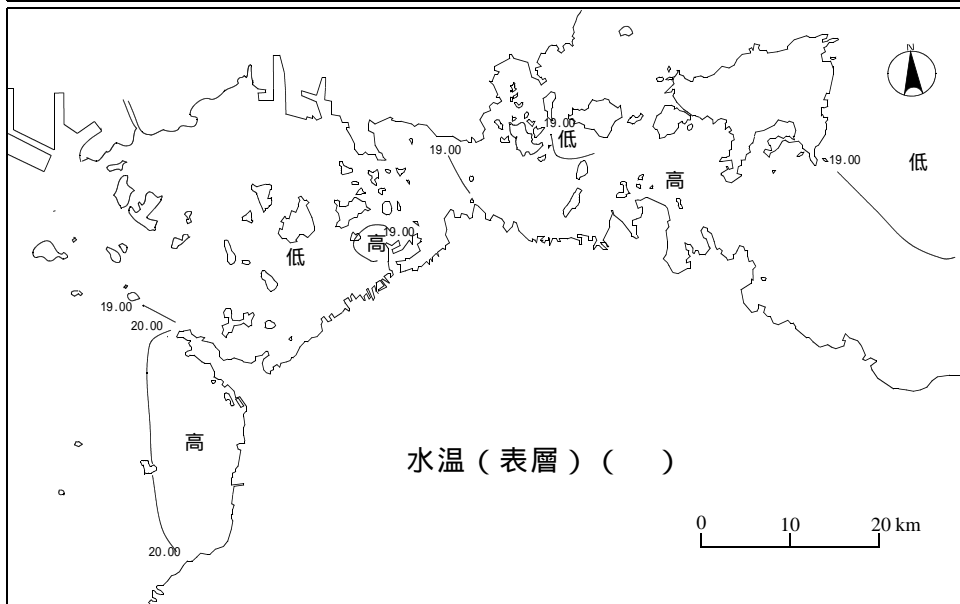
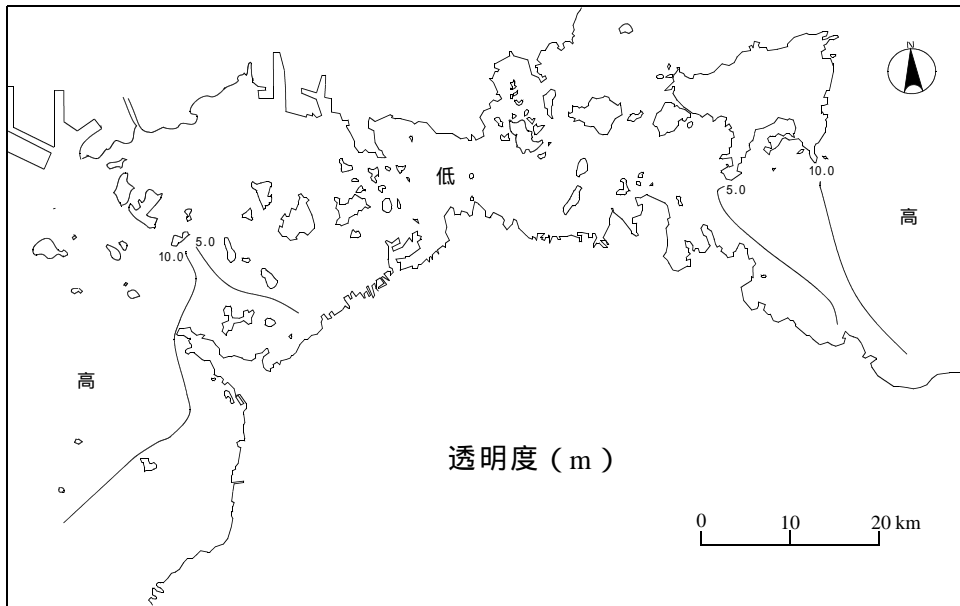
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定量観測(水温)

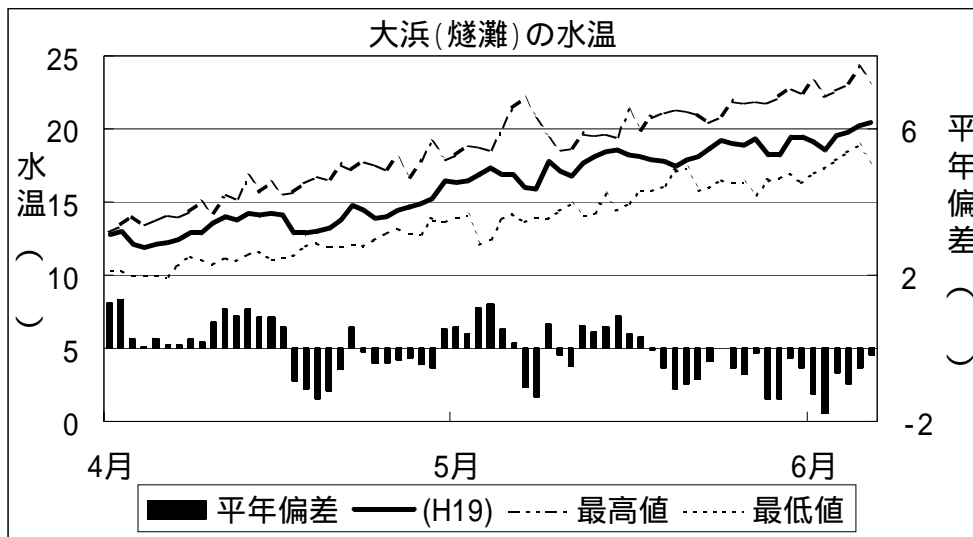
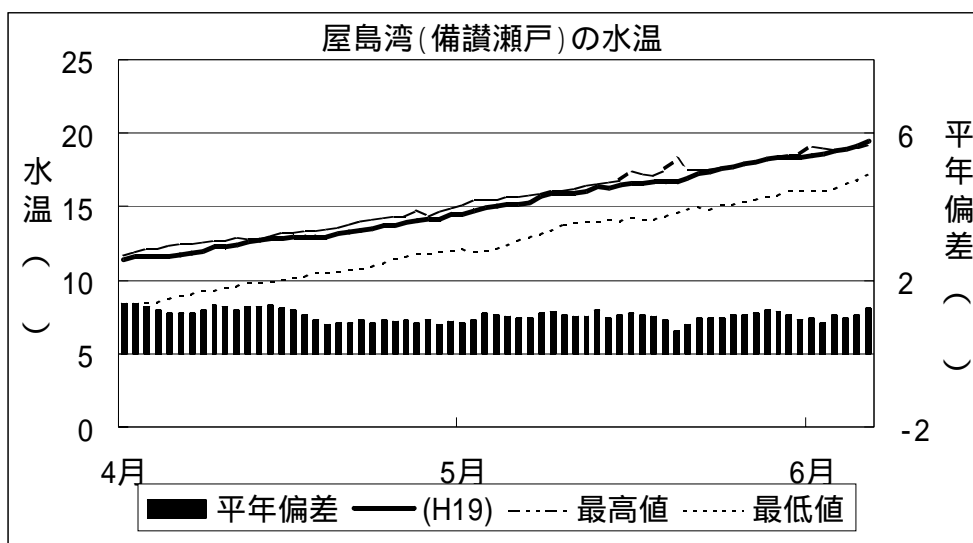
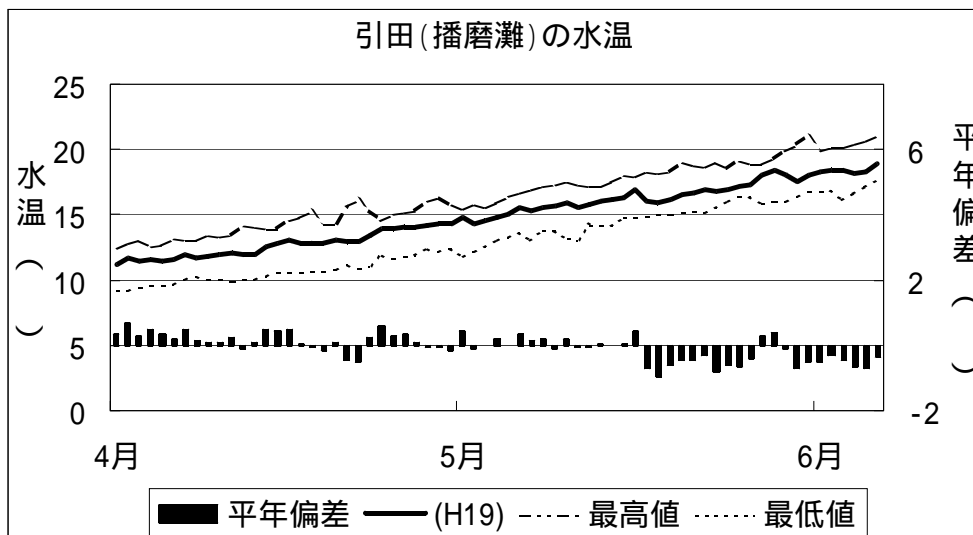
播磨灘(引田): 5月以降平年並みからやや高めで推移している。

備讃瀬戸(屋島): 5月以降やや高めからかなり高めで推移、6月に入ると過去最高値並み(平年値より1程度高め)で推移している。

燧灘(大浜): 5月以降やや低めから平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)～平成18(2006)年

屋島: 昭和50(1975)～平成18(2006)年



4) 赤潮(5月15日~6月13日)

播磨灘：6月11日東部海域で筋状のノクチルカ赤潮発生を確認した。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年6月4日(播磨灘) 1日(備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個(尾)/曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.38	1.88	0.00	0.00	0.00	0.00	11.50	8.38
備讃瀬戸平均	0.33	0.93	0.00	0.00	0.00	0.00	3.47	2.67
燧灘平均	40.14	23.29	0.00	0.00	0.00	0.00	81.29	13.57
総平均	9.63	6.40	0.00	0.00	0.00	0.00	23.77	6.73

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	1.2%	71.2%	0.0%	0.0%
備讃瀬戸平均	5.9%	31.8%	0.0%	0.0%
燧灘平均	61.3%	208.1%	0.0%	0.0%
総平均	28.6%	82.7%	0.0%	0.0%

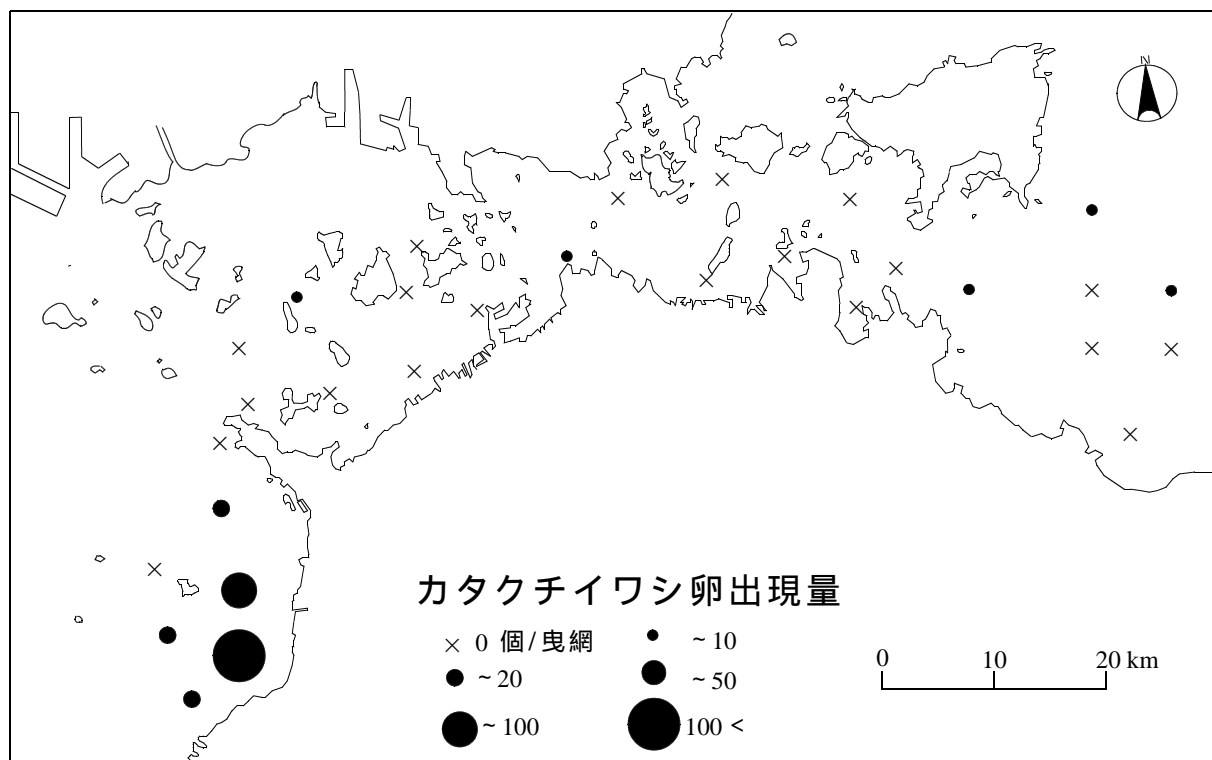
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55(1980)~平成18(2006)年度

マイワシ：平成5(1993)~平成18(2006)年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

5月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では、主に小エビ類、ウシノシタ類、メイタガレイが漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>桁網ではコノシロ、カタクチイワシ、マアジ、ウマヅラハギ、コウイカ類が漁獲されているが、マアジ(小)が少なく、全般的に低調である。</p> <p>大型定置網では主にマルアジ、スルメイカ、タチウオが漁獲されているが、例年に比べてスルメイカが少ない。</p> <p>東讃のシラスの船曳網は5月23日から操業が開始され、5月の漁獲量は約4トンで漁獲がなかった前年を大きく上回った。</p> <p>さわら流し刺網の5月までの漁獲量は前年の約2倍と推定され、大きさは2~4kg サイズの2才魚が主体である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、小エビ類、コウイカ類、テナガダコ、アカニシが漁獲されている。</p> <p>高松・庵治沖のイカナゴ込網の5月までの漁獲量は、約1,226トンで前年の約26%と不漁であった。</p>
燧 灘	<p>底びき網では、主に小エビ類、アカカマス、メイタガレイ、タチウオが漁獲されている。</p> <p>サヨリ機船船曳網は6月に入って約200~250kg/日・隻前後を漁獲しているが、大サイズは減少した。</p> <p>瀬戸内海機船船びき網は前年より1日早い6月13日から大羽漁が開始される。</p>